



市章

# 広報えびな

発行・海老名市役所・海老名市国分155/編集・秘書広報課/電話・31-2111(代)/〒243-04

世帯と人口

昭和60年5月1日現在

世帯 28,721世帯(+577)

人口 92,251人(+848)

男 47,426人 女 44,825人

毎月1日・15日発行

## 相模川は生きている

6月1日開始

### さわやかテレホン

声の市役所だより

電話で市役所の行事や催しもの、相談案内を六月一日からお知らせします。電話は(33)1212です。この案内は、毎週、新しい情報をおみえにお届けします。ご利用ください。

(33)1212



アユのためし釣りの結果は上々!!(5月21日、相模川戸沢橋で)

## アユ漁、六月一日解禁

相模川のアユ漁が六月一日に解禁になりました。釣や休日を満喫する家族連れでにぎわいをみせています。この河川敷は市民に残された貴重な自然で、憩いの場です。自然を守り美化推進を図るため、毎年、美化キャンペーンが実施されています。しかし、ゴミを不法にすてたり、行楽帰りに空き缶、ビンをすてて帰る人がいます。相模川は生きています。魚もすめない川にしたいからでは手おくれです。

アユ解禁前の五月二十一日、アユのためし釣りが相模川戸沢橋で行われました。相模川第二漁協(菊地光男組合長)が、毎年行っているものです。今年は平年並みか。四十分の間に十四人の組合員が六十五匹のアユを釣り上げました。型も大きいもので約二十センチありました。去年は天候も上もなく、エサ不足のため、型は小さかったですが、今年は型も良いとのこと。放流も二百二十匹とされており、期待が持てるそうです。

なお、投あみの解禁は七月一日からです。アユ漁は遊漁券を必ず求めてから行ってください。料金は下表のとおりです。

釣り具店での遊漁券価格

区分	遊漁料金
年釣券	5,000円
日釣券	600円
雑魚券	400円
日網券	2,500円
中学生	(日釣、雑魚)半額
年網券	15,000円

※ただし、現場で漁場監視員に支払うときは、日釣料金100円、日網料金300円がそれぞれ追加されます。

### 川は泣いています

相模川は生きています。でも残念ながらこの河川敷には、コンクリートや木材などの建築廃材などが不法にすてられ自然がたいなしにされています。

去年は、新相模大橋付近に相模川美化キャンペーンが実施され、約七割のゴミが集められました。このゴミの量は、市のゴミ収集車で約五台分以上ありました。一台中分のゴミは、住宅密集地域でゴミ集積所十四、五か所から出されたものぐらいいです。五台分以下

上ということになると天谷地域全域のゴミが、相模川の新相模大橋付近にすてられたことと同じです。相模川美化キャンペーンを実施している市美化運動推進協議会の荒川連会長は「相模川は市民の憩いの場であり、我が家の庭です。一度失った自然は回復は難しい。だから、こうした運動が大切なんです」と語っています。

不法にすてられたゴミの山



こんなにゴミをいっぱいすてられたら、息もできません。私は泣いています。相模川の声なき声より＝

ゴミはすてないで

釣り場はみんなのもの。あとから来る人のためにも、釣り針、糸、空き缶などは河原にすてないで!



相模川美化キャンペーン



相模川美化キャンペーンも今年で第五回目。キャンペーンも定着し市民や各種団体の積極的な参加で、自然や美化が守られている







# フットピックス



半球型の日時計に人気集中

## 時は影なり

図書館に日時計を設置

「これだぞ!」「三矢みたい!」五月十六日、図書館と教育センターの開館を記念して小田急建設、新日本空調、機電工社などから寄贈されたもの。材質はステンレス製、直径六十センチの半球型で何時何分まで正確に知ることができ、

「プラネタリウムに見た星座で場所を知り、太陽の動きで時間を知ることができま〜」という係員の説明に、子供たちは「昔の人の知恵はすごい!」としきりに感心していた。

## 風船で友達増えた

各地で子どもふるさとまつり

四月二十八日、五月三日の両日、市内六地区で毎年恒例の「子どもふるさとまつり」が開かれた。この催しは、子供たちに運動やゲームを通してふれあう意識を持ってもらおうと、各学区子ども会が開いているもので、今年は約五千人が参加した。

写真(下)の上星小学校では、



カンボクもあつたよ(上星小)



ハウスの中は家族連れでいっぱい

## イチゴ食べ放題

中河内での土の日は開催

いった返事が届き、友達の輪はこれからは広がっていくこと。各種ゲームコーナーを開いたほか、なわとび大会、のびのび大会などを盛り盛り見せました。また、子供たちがそれぞれに見え友達にメッセージを書き、約千二百個の風船につけて空に放ったところ、千葉、茨城などから「これを機会に知り合いに」と

新鮮なイチゴを食べ放題!五月十二日、中河内の尾上高穂さ



大盛況だった各種バザー

## 地域ぐるみの交流

「ふれあいひろば」が開かれる

五月十二日、知恵屋の子供たちと地域の大人たちが一緒に「ふれあいひろば」が開かれた。この催しは、同作所と手をつなぐ親の会(根本芳枝会長、会員八十八人)が主催したもので、子供たちが一生けん命生活している姿を多くの人に知ってもらおうと

三年前から行っている。当日は、ボランティアの人たち約二十人がダンス、紙しばい、パネルシアターや各種ゲームをやって会場の雰囲気を盛り上げた。また、各家庭の協力を得て集めた日用品を格安で売るバザーや、作業所の所員たちが運営する模擬店も盛況で、売り切れにな店も多く、「これもみなさんのおかげ」と、会員の意欲が回を重ねるたびに高まってきた結果」と根本会長は語っていた。



このコーナーに投書される方は、住所・氏名を明記し、海老名市役所秘書広報課へ。

## わがまちの展望

全国六百五十二の都市で成長力、経済力の総合判定では厚木市がトップ(成長力十九位、経済力十位)。こんな都市をある週刊経済誌が発表。神奈川新聞がみずほの中で掲載されている。その記事によれば、注目されるのは磯瀬・海老名市で、成長力では厚木市を上回り磯瀬八位、海老名十五位。経済力では

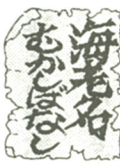


「海老名中央公園」の開園式

両市とも二百番台ですが、やがては、海老名が厚木に迫る可能性もなきに違いない。これは、いすれにせよ、農村だった県央の各都市が横浜、川崎をしのぐ活力を呈してきたことは喜ばしいことです。躍進を続けているのが郷土海老名を展望するとき、県央地区の駅前公園としては最大規模の「海老名中央公園」が全面完成したこともまた、市民

大谷 三郎 周夫

農家の収入の大部分を養蚕に頼っていた大正時代、当時小学生だった私は、繭がきなどの手伝いをよくさせてくれた。繭がきはまじし(蚕に繭を付けた道具)から繭をきとる単純な作業なので、すぐあきてしまふのだ。そんな時、私の母はいろいろ興味ある話を聞かせ、手もつて下さる。留めておくのだ。次の話もそんな時に聞いたものである。

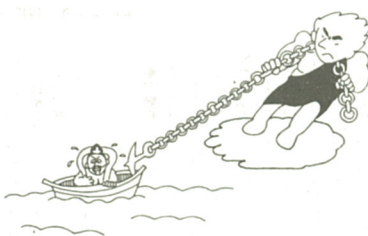


## 仁王様の力だめし

第11話

火鉢を抱えてきて仁王様の前へドスドス置きました。仁王様は「一服とさせるのがん首を火鉢にかけ引き寄せよう」としましたが、びくともしません。仁王様は「ん、重いのを軽々と運んで来た奥さんの主人はどんなに力持ちか、自分では力だめしなつても知れない」

「仁王様はこんな道で大川の中へ来た。幸い一そつの舟があったのでそれに飛び乗り一心にこぎ出しました。川のまん中へ



この岸に着きました。そして一目散に逃げて、井戸やぐらの二階へ隠れていました。大

男は追いかけてきて探さへんた末、いよいよとすると井戸の中へ隠れたか中をのぞくと、仁王様の顔が写っていたので「仁王出てこい」と叫びました。そのすきに仁王様はそばにあった大石を大男に投げつけて井戸へ落とし、ほうほうの体で日本へ帰ってききました。

そして観音様へ一節始終を話しました。観音様は「その大男は天竺からきこお前を採りに来たのだ。見づからぬまに私の門番をしないさい。たいくつだから、わらしでも作っていいから」といわれました。こうして仁王様は今でも前にわらしをか(観音様の門番を)しているのだといひます。

こんな話を聞きながら幼い私は胸がきい切れたのだ。

(国分の池田武治氏寄稿)